

1. 略歴

- 1985年3月 東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
1985年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程入学
1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程修了
1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程進学
1988年9月 中華人民共和国北京大学中国語言文学系留学（至1990年2月）
1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程退学
1990年4月 神奈川大学外国語学部専任講師
1993年4月 神奈川大学外国語学部助教授（至1995年3月）
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（現在に至る）
1998年3月 文部省在外研究員に採用され、中国広州市中山大学に於いて研修（至1998年12月）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国語学、中国古文字学

b 研究課題

(1) 上古中国語の文法研究

構文と文法範疇の相関的変容の諸相、及びそれに関与する様々なファクターの解明を目指している。

(2) 戦国秦漢出土文字資料の研究

戦国秦漢時代の出土文字資料の解読の他、言語がどのように文字化されたかという視点に基づき、地域毎の用字法の相違、秦による文字統一の実態や文字政策に関する探究を行っている。

c 主要業績

(1) 論文

大西克也、「史書」とは何か——英藏敦煌漢簡及び秦漢楚地域出土資料を中心として——、『出土文献と秦楚文化』、第5号、23-45頁、2010.3

大西克也、「放馬灘秦簡用字的幾個特點」、『第二十一屆中國文字學國際學術研討會論文集』、375-392頁、2010.4

大西克也、「古漢語“來”類動詞詞彙使役句和句法使役句的語義差異」、『中國語言學』、4、73-89頁、2010.7

大西克也、「試說“流形”原意」、『出土文献』、1、181-184頁、2010.10

大西克也、「上博楚簡『平王問鄭壽』の歴史的背景について」、『出土資料と漢字文化圏』、3-16頁、2011.3

大西克也、「上博七『君人者何必安哉』「有白玉三回而不斃」及其他」、『第十屆中國訓詁學國際學術研討會論文集』、81-88頁、2011.5

大西克也、「所有から存在へ——上古中国語における「有」の拡張——」、『漢語与漢語教学研究』、2、16-31頁、2011.7

大西克也、「秦漢楚地隸書及關於“史書”的考察」、『簡帛』、6、437-456頁、2011.11

(2) 学会発表

国際、大西克也、「説“生”——上古漢語動詞“生”的語義及句法特點」、中国語言学發展之路——繼承、開拓、創新 国際學術研討会、中国・北京・北京郵電會議中心北樓2樓報告庁、2010.8.29

国際、大西克也、「從“領有”到“空間存在”——上古漢語“有”字句的發展過程」、第七屆國際古漢語語法研討会、フランス・ブルターニュ・ロスコフ海洋生物研究センター、2010.9.19

国際、大西克也、「上古漢語“奪取”類雙及物結構研究（初稿）」、第七屆海峽兩岸漢語語法史研討會、中国・浙江省・浙江師範大學國際交流中心、2011.8.18

(3) 書評

原宗子、『環境から解く古代中国』、大西克也、『漢文教室』、196、38頁、2010.5

(4) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、大西克也、研究代表者、「中国語文法史の歴史的展開——構文と文法範疇の相関的変遷の解明」、2011～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、埼玉大学国語教育学会、「戦国秦簡出土文字資料から見た「文字統一」」、2011.12～

特別講演、国立成功大学、「從秦漢出土文献看「史書」的含義」、2011.12～

特別講演、国立成功大学、「上古漢語和出土文献——文本和語言的關係——」、2011.12～

(2) 学会

国内、中国出土資料学会、会長、2010.4～

国内、日本中国語学会、編集委員長、2010.10～